

2013年度 農村計画学会賞(業績)受賞講演
2014/4/12

エコロジカルな農村計画

をめざす

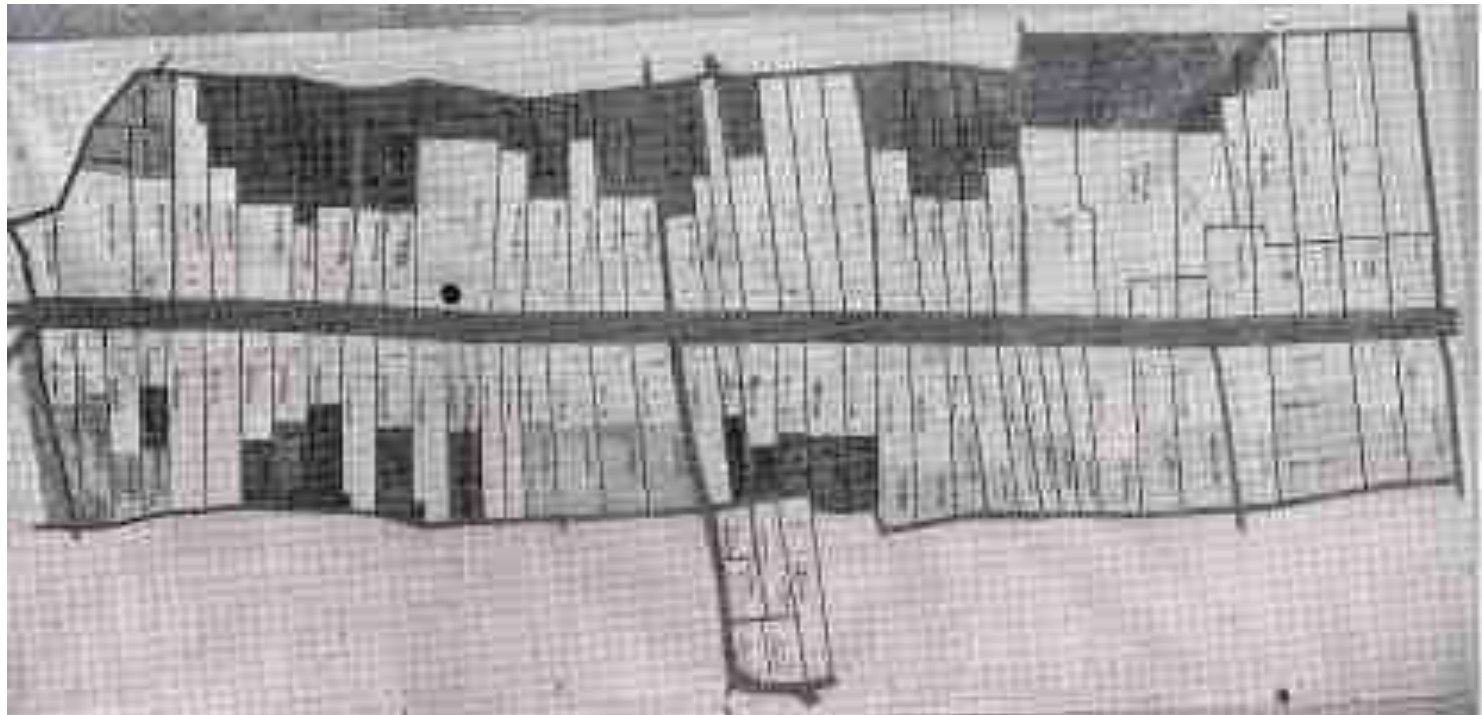
先駆的研究と実践

糸長浩司

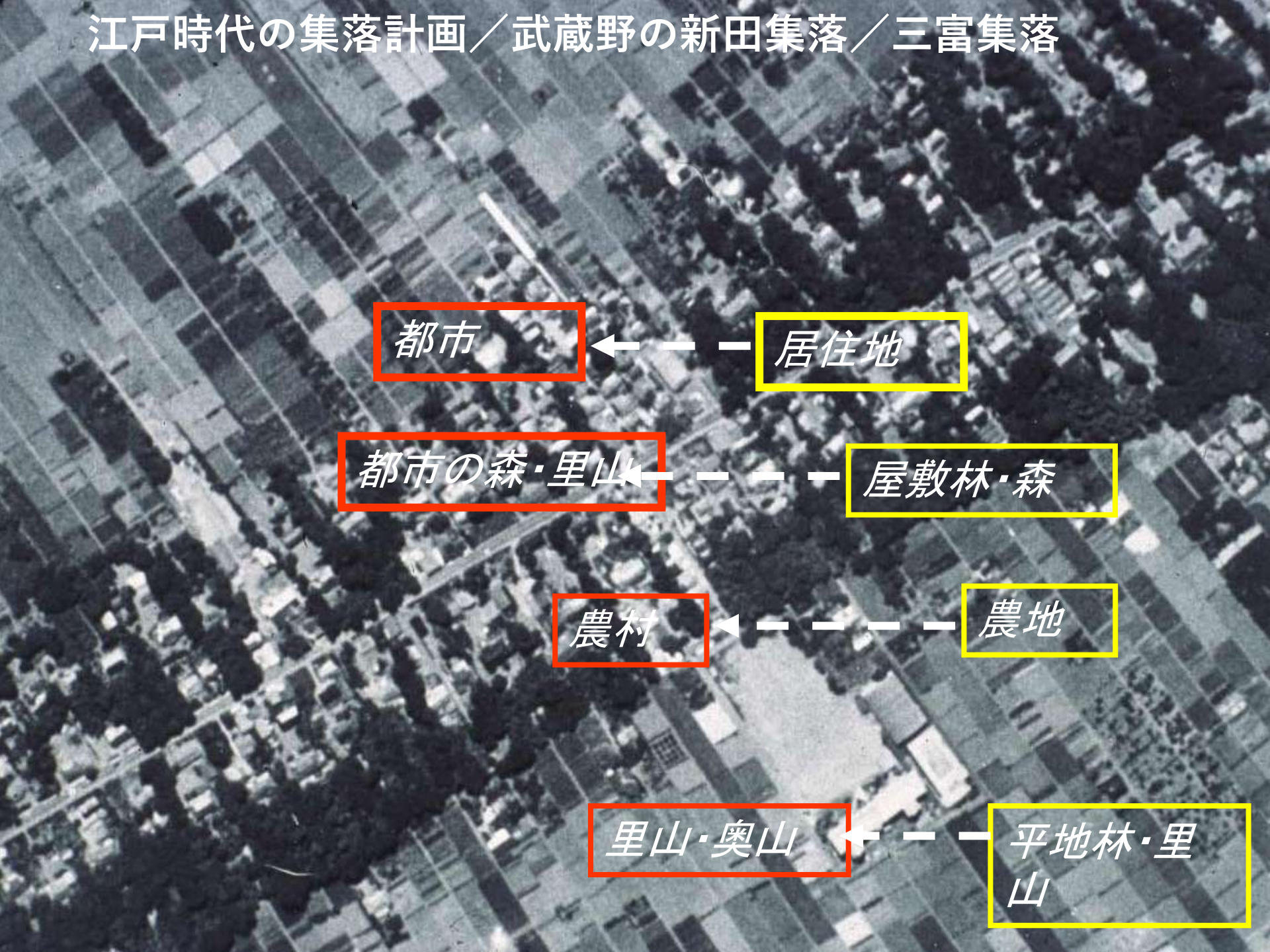
日本大学 生物資源科学部
生物環境工学科 教授

★ 農村計画研究と実践のルーツ

- 1) 江戸時代の新田集落に生まれる。東京都青梅市新町。
江戸初期の新田開発者 吉野織部之助による新田開発。
江戸道両側33屋敷平均2町歩を区画
畑作新田村造成の先駆



江戸時代の集落計画／武蔵野の新田集落／三富集落



都市

居住地

都市の森・里山

屋敷林・森

農村

農地

里山・奥山

平地林・里山

★ 農村計画研究と実践のルーツ

2) 建築計画学（技術学）を学ぶ

九州大学青木正雄 「客観的法則性の意識的適用」

計画対象を客観的・科学的に認識し、

「法則性」を見いだし、適用・応用する。

3) 生活科学と計画理念・哲学・愛を学ぶ

東京工業大学青木志郎

農民のため、生活を総合的にみる・科学する

三位一体の計画、点・線・面の計画、参加の計画

★ 受賞業績の概要

①地域資源を活用した地域住民の農村計画の主体構築の

実践的手法への革新

景観等の地域資源を活用し、エコロジカルで多元的な農村計画手法

山形県飯豊町、福島県飯舘村、神奈川県旧藤野町篠原地区等での

行政、地域住民協働でのエコロジカルな地域づくりの主体の構築の実践的研究

②建築・農・自然環境の融合、

「パーマカルチャー」概念導入、エコロジカルデザイン手法

建築・農・自然環境の融合した空間デザイン手法の革新

農をベースとした持続可能な生活空間の構築デザイン論「パーマカルチャー」導入

草の根運動の推進、日本の農的文化性、

伝統性と調和した農村・都市計画の理念と手法への革新的な研究

★ 業績の概要

③ 「エコビレッジ」の導入とよる

エコロジカルな農村コミュニティ計画への革新

1990年代より「エコビレッジ」概念を日本に導入し、その普及と日本的応用
農村集落コミュニティ・空間のエコロジカルな再生デザイン論、手法の提示

④ 災害・不安定社会におけるレジリアンス的な

農村計画理論への革新

地球温暖化、人口減少、大震災、原発・放射能災害等の多元的な課題の厳しい時代

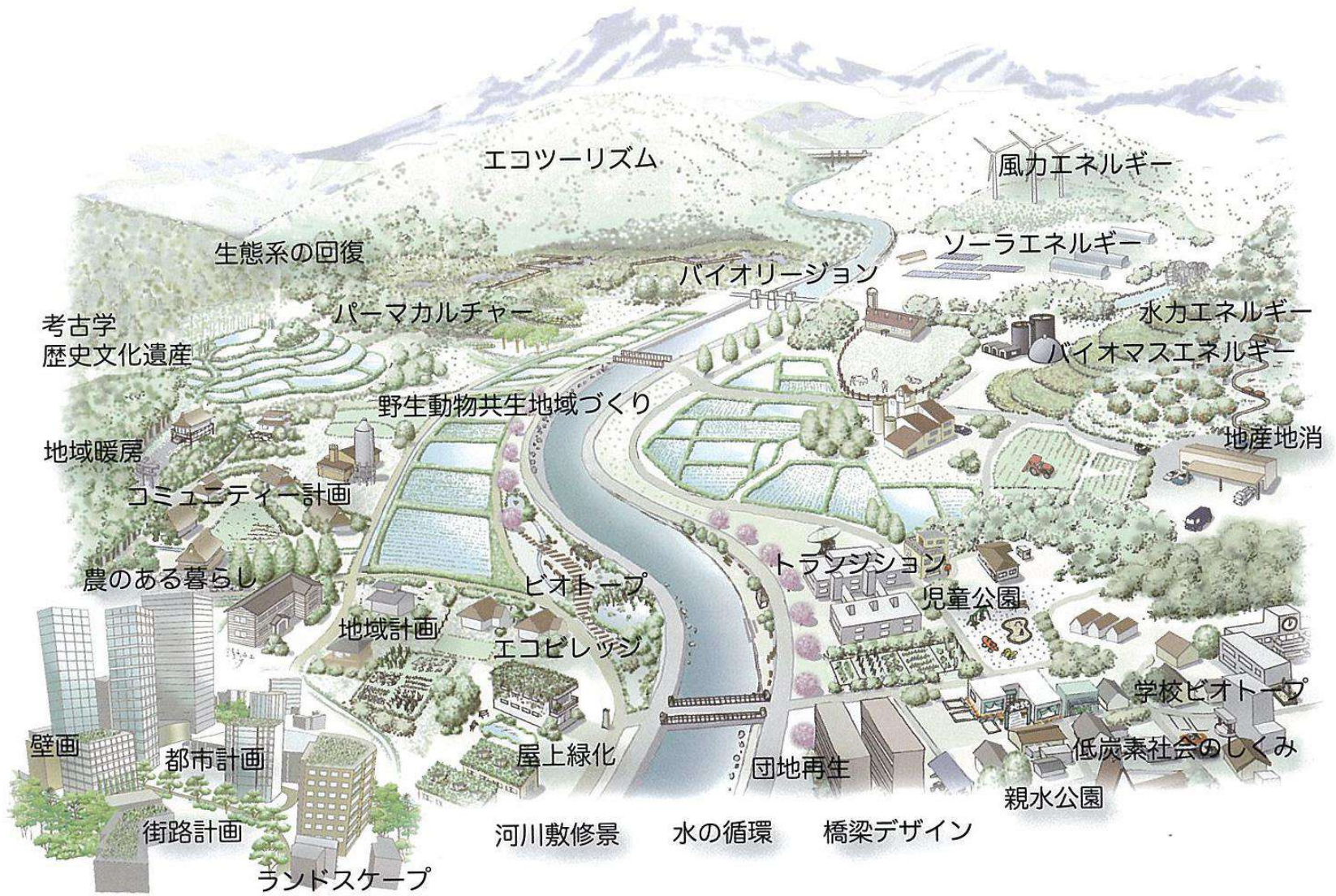
上記の①～③計画理念、手法を生かし、

かつ、価値転換、脱経済成長、ローカリゼーション、レジリエンス等の概念導入

大震災被災地への支援的研究、政策提案

移住・定住・還住のデザイン等の概念による

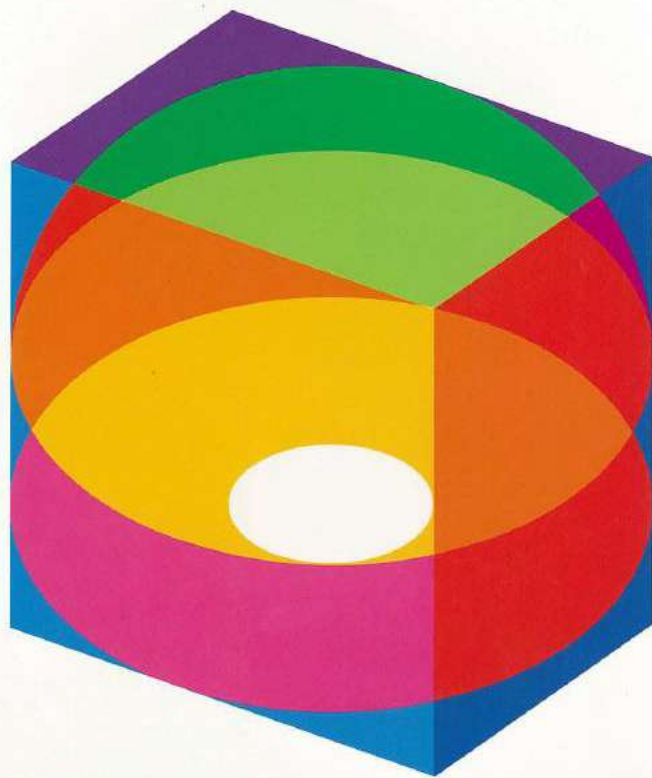
長期的な時間軸を組み込んだ農村計画理論の革新的研究



地域活性化シリーズ

⑨ 地域のデザイン

糸長 浩司 目瀬 守男
藤岡作太郎 丹羽 英喜
今竹 翠 矢野 豊一



明文書房

• 1993年

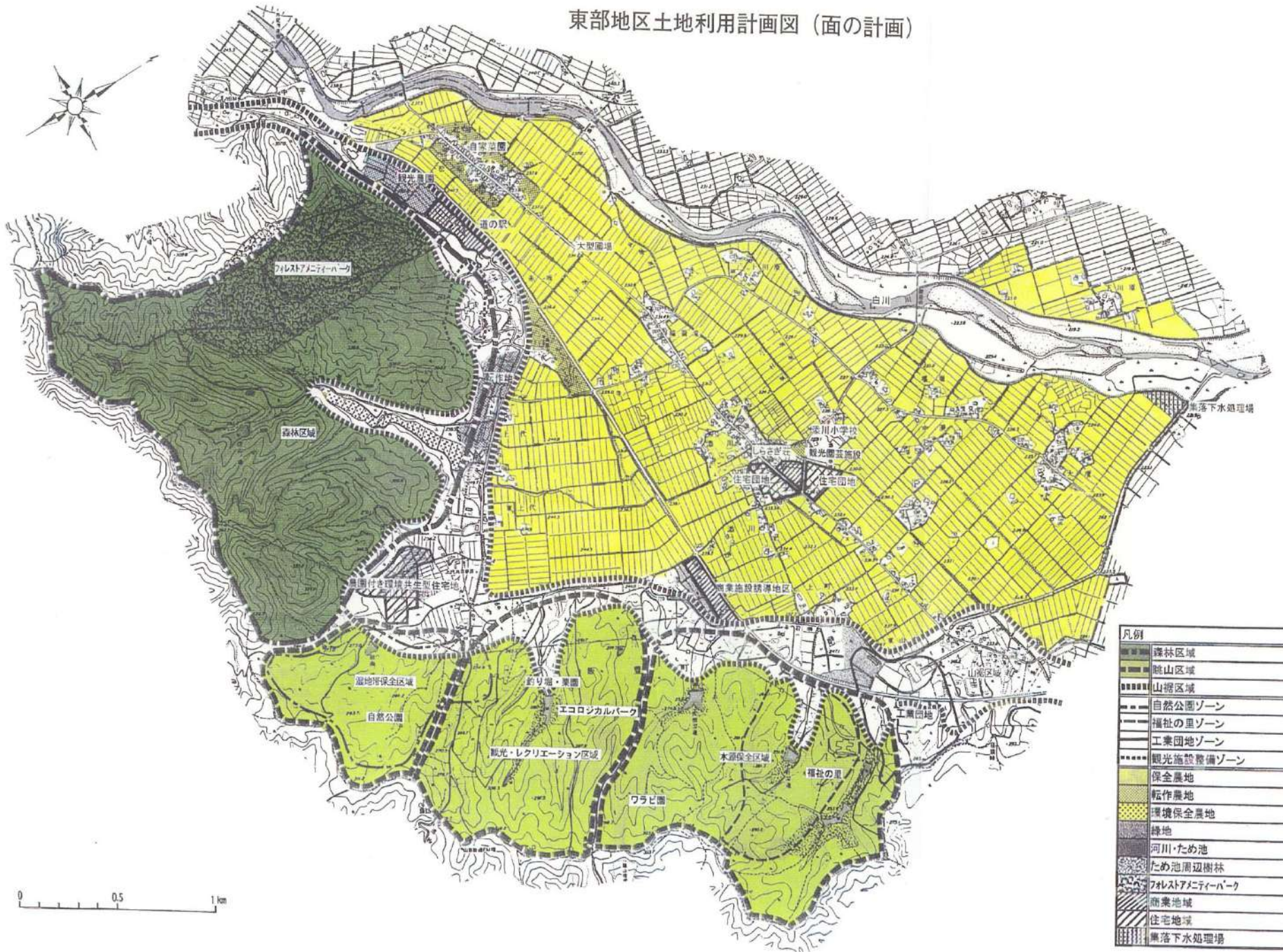
山形県飯豊町

散居風景の保全と住民参加による土地利用計画

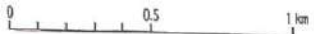
1980年代後半～



東部地区土地利用計画図 (面の計画)



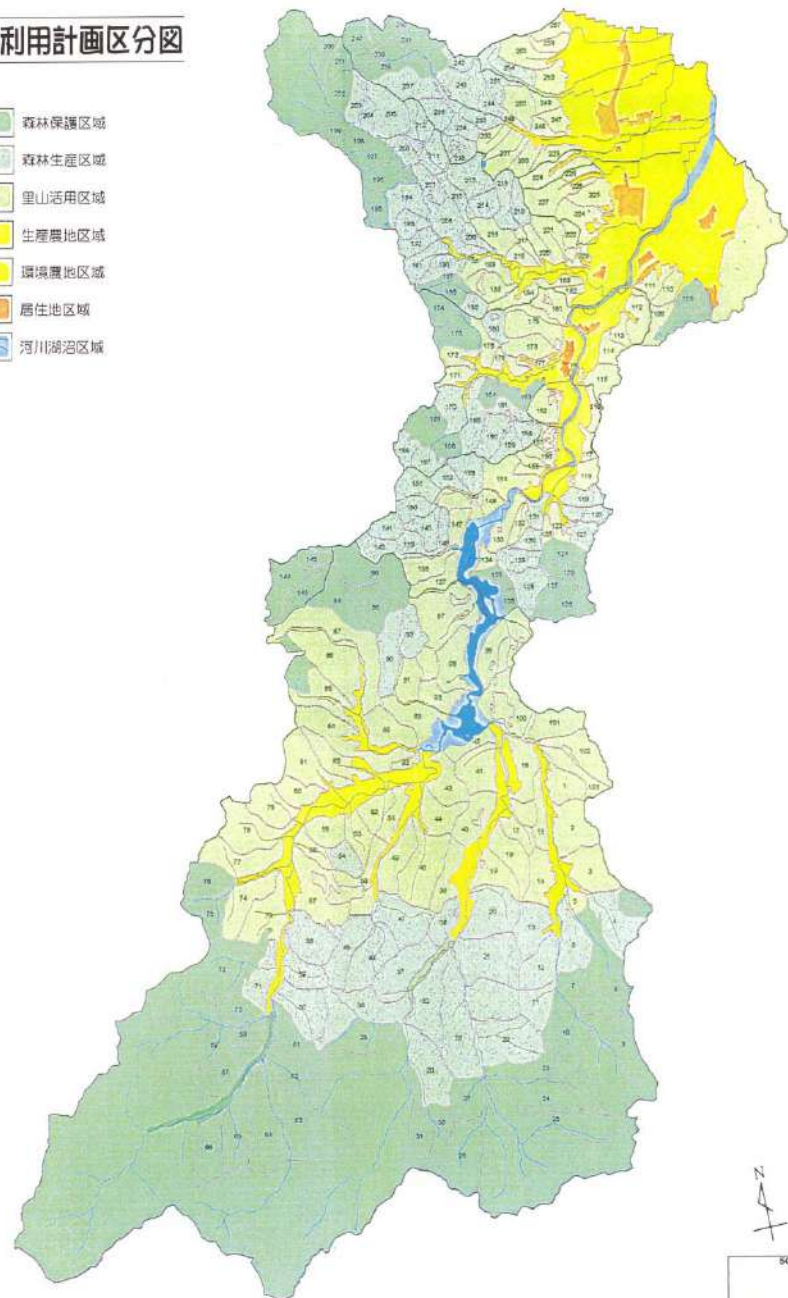
凡例	
	森林区域
	陸山区域
	山裾区域
	自然公園ゾーン
	福祉の里ゾーン
	工業団地ゾーン
	観光施設整備ゾーン
	保全農地
	転作農地
	環境保全農地
	緑地
	河川・ため池
	ため池周辺樹林
	フォレストアミティーパーク
	商業地域
	住宅地域
	集落下水処理場



飯豊町土地利用 計画図

土地利用計画区分図

- 森林保護区域
- 森林生産区域
- 里山活用区域
- 生産農地区域
- 環境農地区域
- 居住地区域
- 河川湖沼区域





ペレット生産とペレットストーブ、ボイラー



雪室 冷房室

山形県飯豊町での森林バイオマスエネルギーの
地産地消戦略



モデルエコ住宅

作：浦上健司

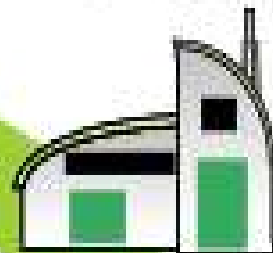
木質ペレットの利用からはじまる

管理が困難だった里山・山林

木質ペレット製造事業化



未利用材の活用



萌芽更新、もしくは
伐ったら、植えるが基本！

- 山林の適正管理の復活
- 環境にやさしい燃料の利用拡大
- 町内での経済循環の再生
- 販賣らしさの強化



山林管理費

ペレット生産



町内公共施設、一般世帯



ペレット流通



既存事業者

飯豊町中津川地区住民の出資によるペレット生産会社の工場



★飯舘村の集落住民と行政の協働による村づくりの歴史

住民と行政の協働によるエコロジカルで、手づくりの村づくり

偉大な田舎人づくり（クオリティライフ顕彰）

1990年代

20の集落（行政区）単位での地区別計画と行動

10年間で各地区へ1000万円の村から活動費助成

までい（真手、じっくりゆっくりの意味の東北弁）なむらづくり

新エネルギープランと木質エネルギー（チップボイラー）活用



総合計画書に掲載された地区別計画の例

- ・古き良きものは、将来に受け継ぎ保存し、新しいものには積極的にとりくみ、ものごとには前向きにとりくむ地区。
- ・医療、福祉、道路等の整備が進み、以前のように街の中を清流が流れ、みんなが安心して生活ができ、また高齢者を地区住民で気づかい、高齢者及び障害者等が自立し生きがいをもって、高齢者自らも地域に協力できる地区。

6. 今後10年間の達成目標、重点施策

- (1)若者が定住できるよう条件整備を図る。
- (2)地域の生活環境の整備。
- (3)公共施設、用地跡地の有効利用への積極的協力。
- (4)地域コミュニティの充実。
- (5)文化芸能の保存、レクリエーション等の推進。

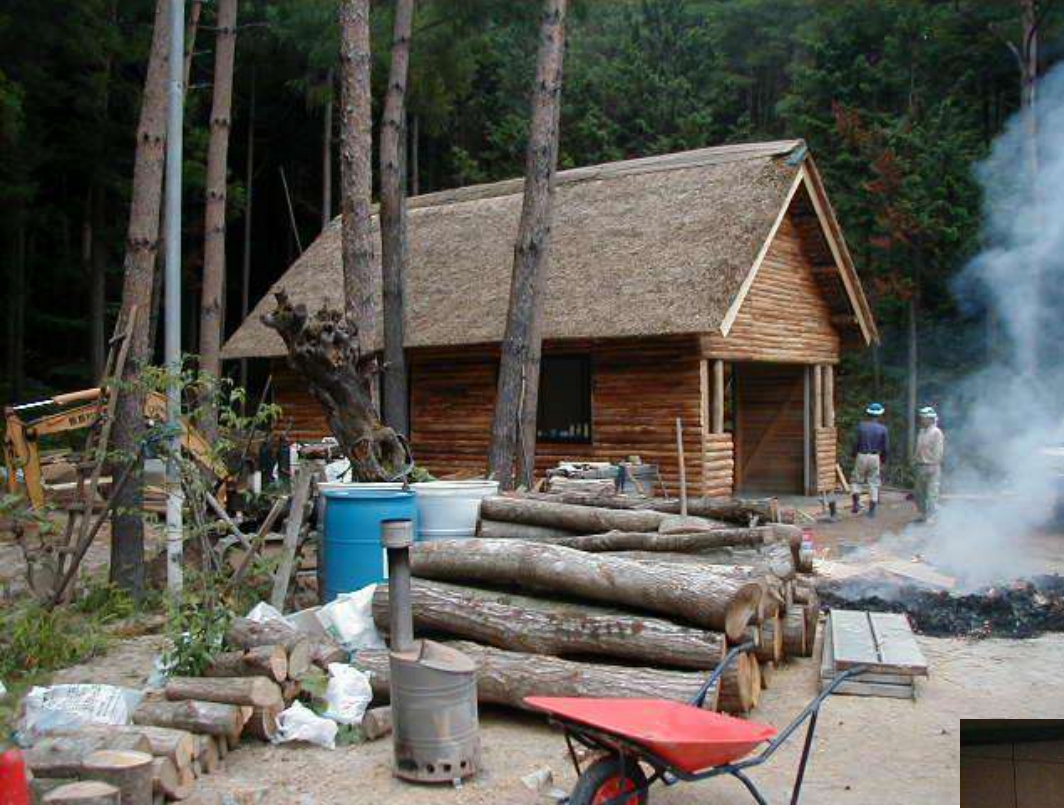
具体的には

- (1)若者が定住できるよう条件整備を図る。
 - ・住宅団地誘致への積極的協力
 - ・入居条件の緩和された住宅建設の要請
- (2)地域の生活環境の整備を図る。
 - ・農業集落排水事業（下水）の実施

- ・前山公園遊歩道の整備
 - ・用水路の蘇生、サイクリングロードの整備
 - ・国道 399号線の早期実現
 - ・歩道とバイパスの設置、古今街中案内板の設置
 - ・街路灯の設置（更新及び新設）
- (3)公共施設、用地跡地の有効利用への積極的な協力をを行う。
 - ・公共施設、用地跡地の活用については、地区民一体となり有効に利用されるよう協力する。
 - (4)地域コミュニティの充実を図る。
 - ・高齢化社会に向けての地区の組織づくり
 - ・行政区内の各種団体、ボランティア、組織等への支援体制の確立
 - (5)文化芸能の保存、レクリエーション等の推進。
 - ・盆踊り …………… 各班、芸能復興会
 - ・創作太鼓の創設 … 教育文化部
 - ・長い人生を健やかに過ごすために健康に必要なレクリエーション、運動会等の実施

【将来のイメージ図】





村民のコミュニティビジネス 産直と炭の販売所建設

福島県飯舘村

子供達の創作太鼓



分散型再生可能エネルギーの地産地消



役場の太陽光発電

エコライフ学習センター



福島県内で最初に導入した
デンマーク製の
木質チップボイラー

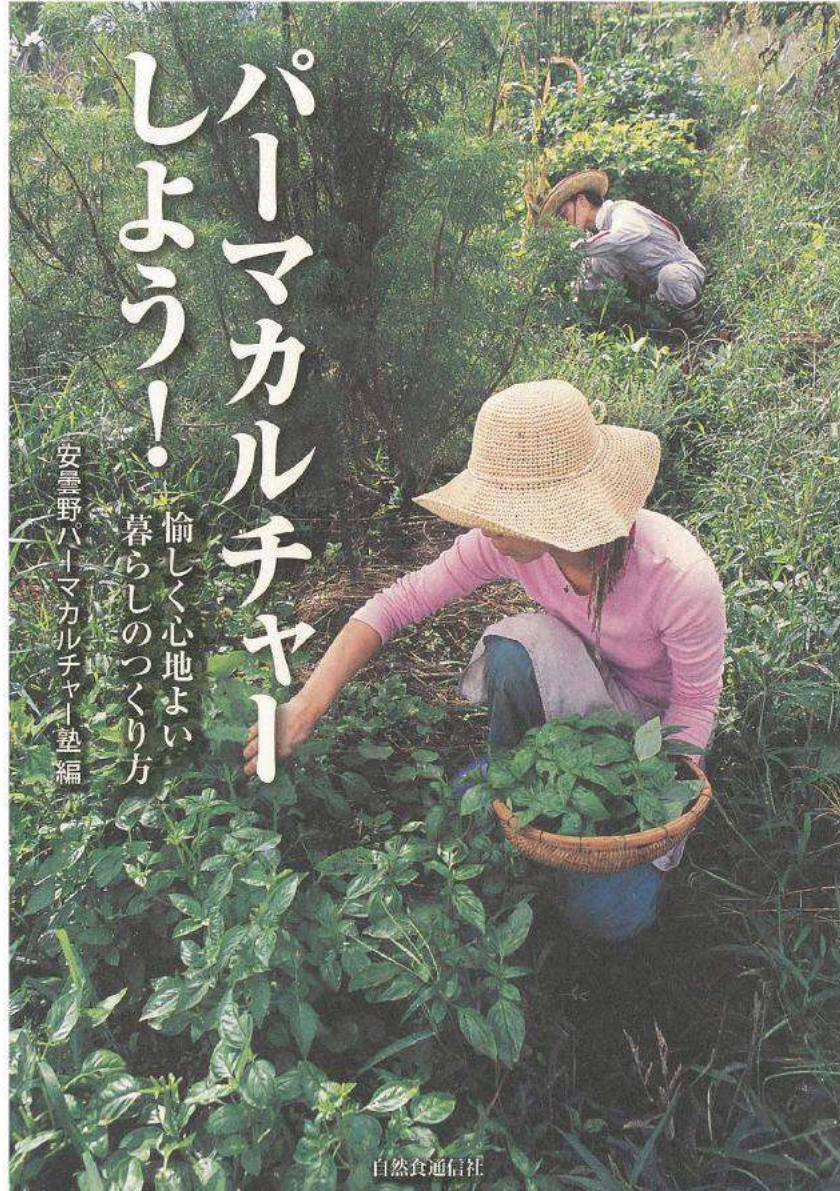
・震災の石油不足で活躍！

伝統的な自然エネルギー

子ども向け自然エネルギー
教室にも注力！



までいな暮らし普及センターの概観(2010/5)



パーマカルチャー しよう！

愉しく心地よい
暮らしのつくり方

安曇野パーマカルチャー塾編

自然食通信社

パーマカルチャー (PERMACULTURE)

永続性を意味するパーマネントと、農業を意味するアグリカルチャー、

文化を意味するカルチャーの合成語

自然のシステムを生かし、農の魅力を暮らしの中に永続的に取り入れる

食べられる有用な自然の森を暮らしの中に自ら作ること

D I Yでの持続的な暮らしづくり

地域資源の発見、伝統の生活文化の発見と継承、

適正技術の開発と応用

多様なその地の情報を集めデザインする

新しい知恵技術・過去の知恵技能・みえる情報・みえない情報

生態系・エコシステムの構成要素

生産者としての
の

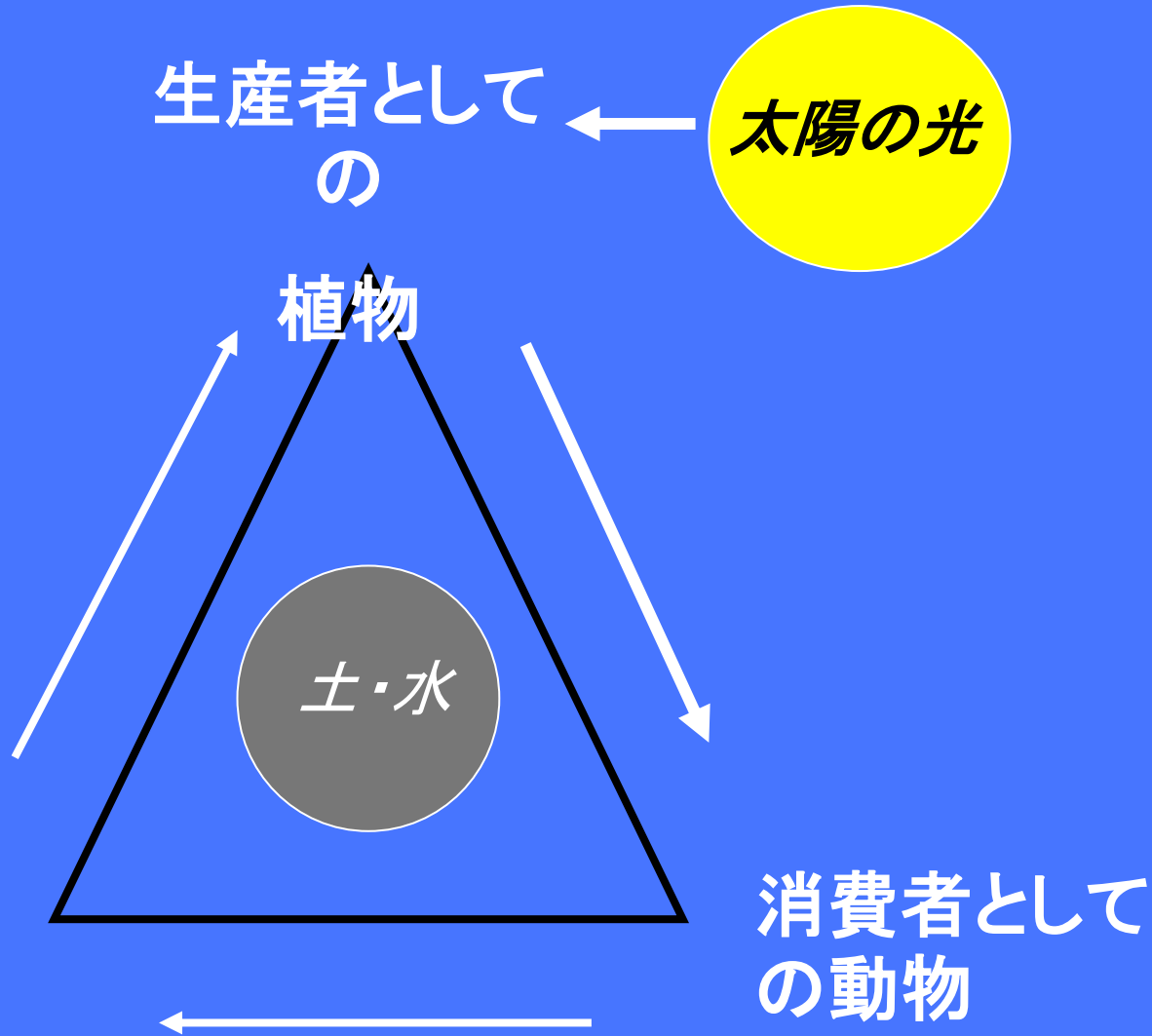
太陽の光

植物

土・水

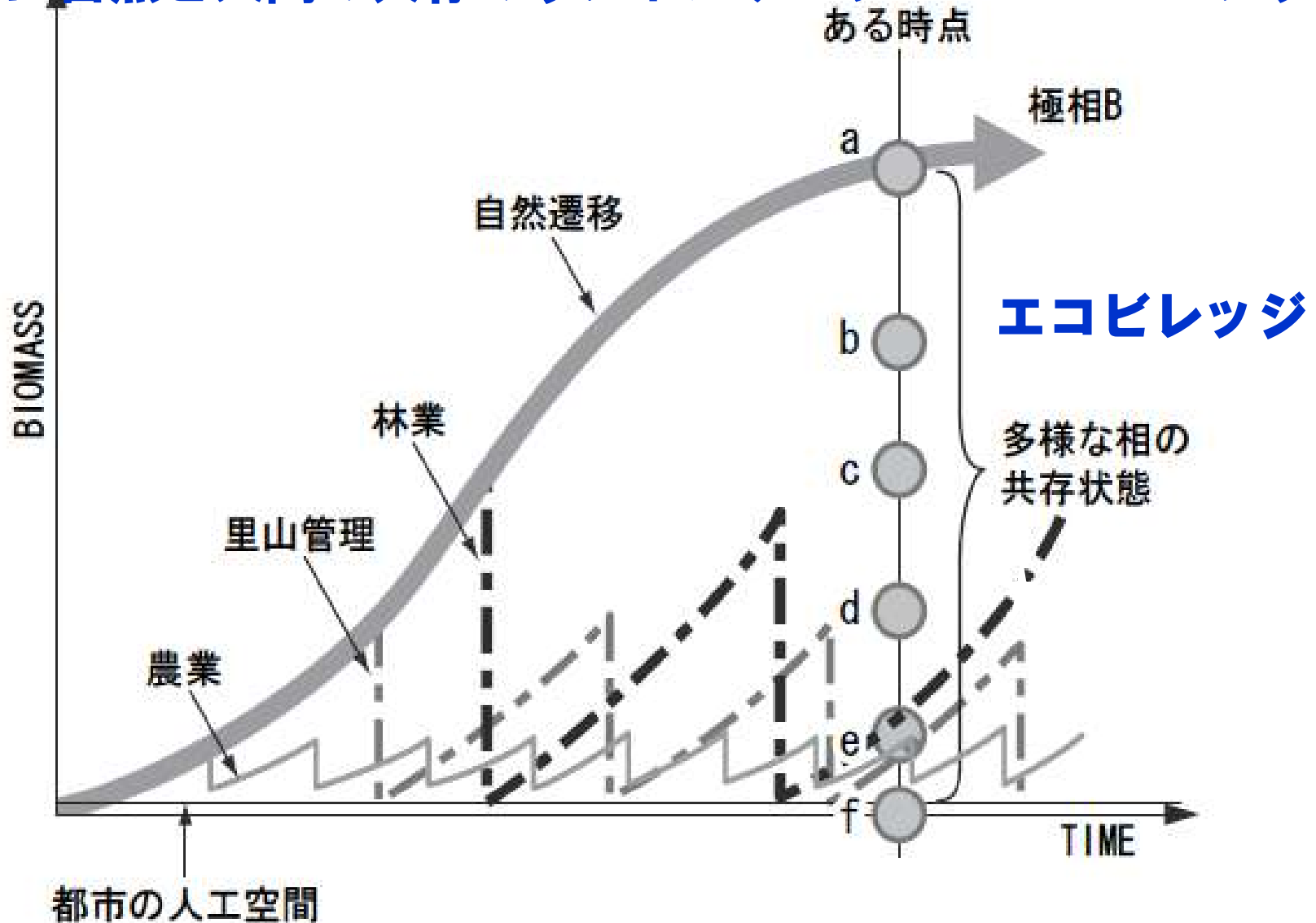
分解者としての
の微生物

消費者としての
の動物



ギャップダイナミクスと多層なランドスケープデザイン

多層に自然と人間の共存のランドスケープ → エコビレッジ



日大・藤沢キャンパス・エコビレッジのチャレンジ 生物環境科学研究センター





**日大CNE S敷地内でのアトムハウスプロジェクト/
ストローベイルとラムドアース建築**

★相模原市藤野町篠原地区での エコロジカルな地域づくりへの 支援活動





廃校活用による自然と農を介した都市農村交流活動

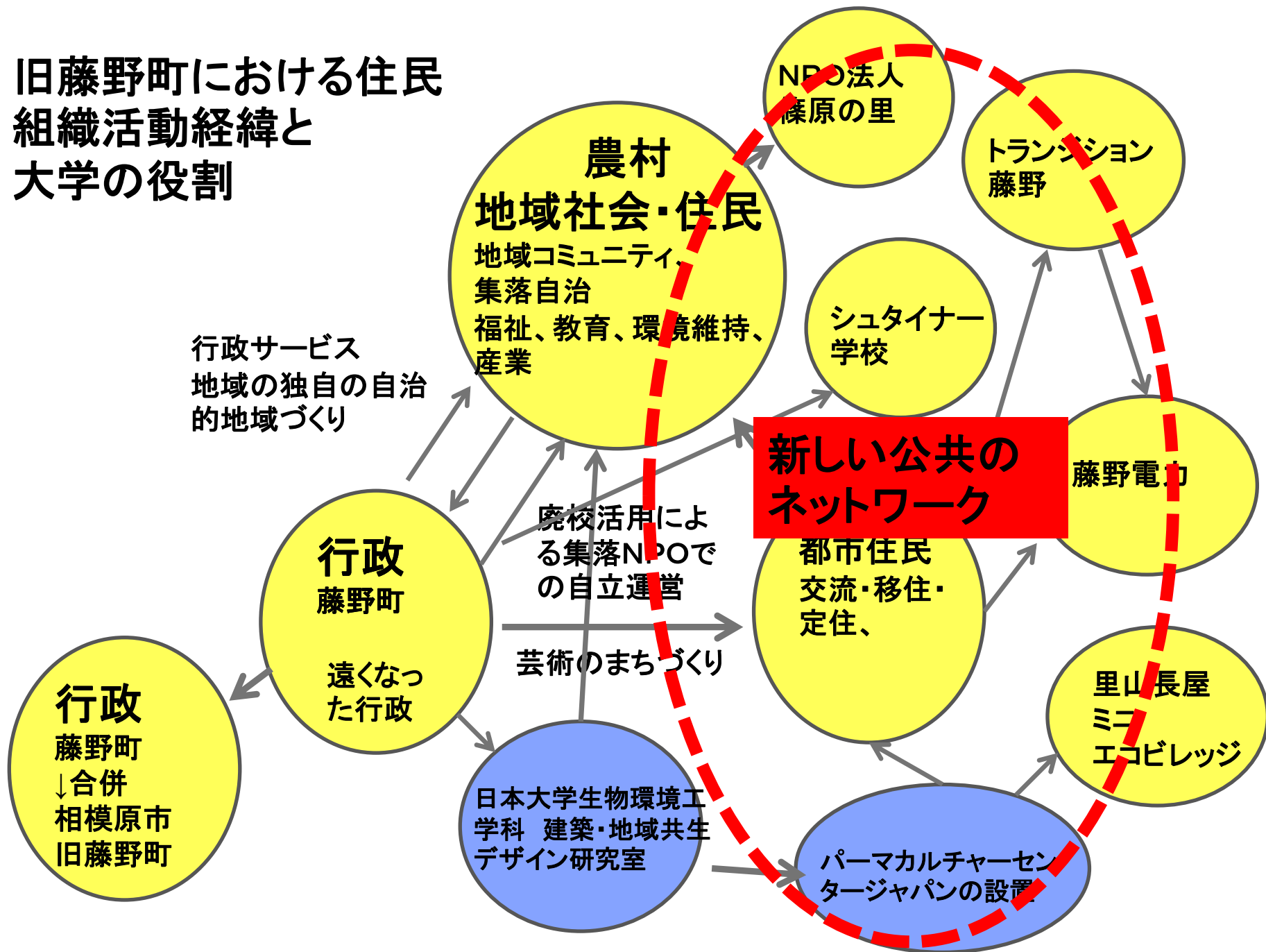


集落NPOでの篠原の里



自然体験交流

旧藤野町における住民 組織活動経緯と 大学の役割



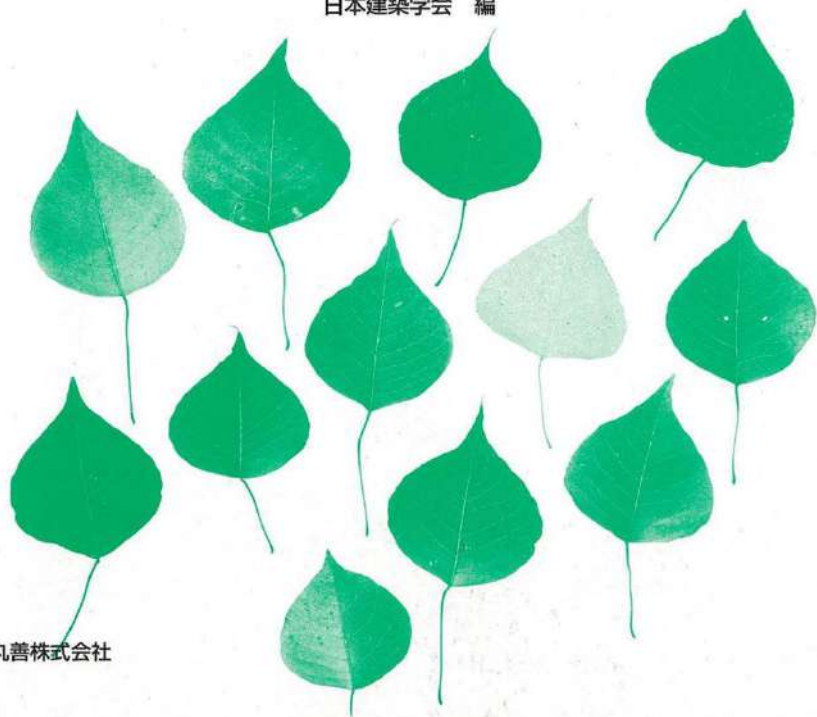


まちづくり教科書

第10巻

地球環境時代の まちづくり

日本建築学会 編



丸善株式会社

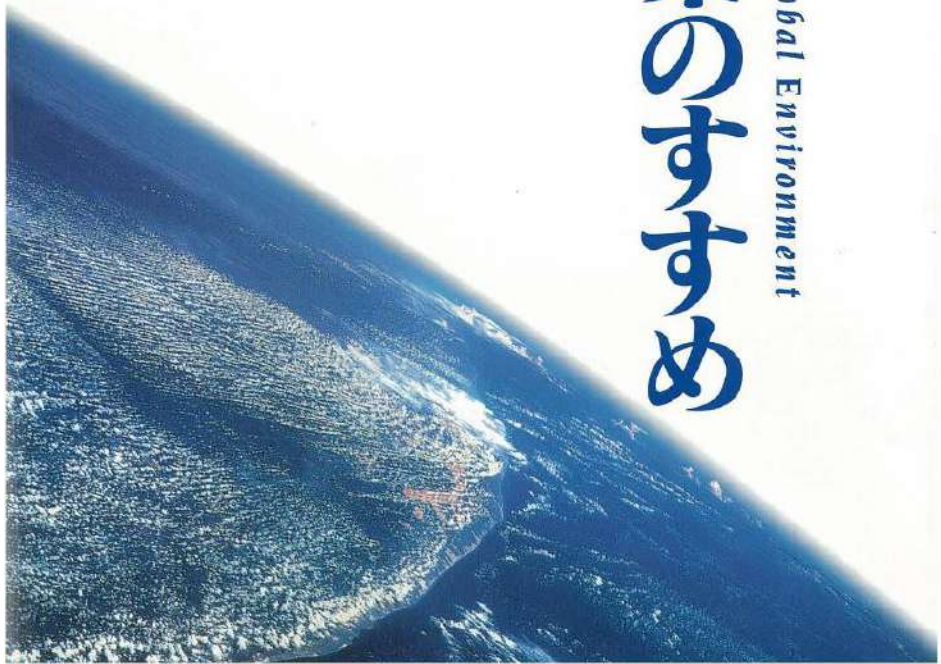
2050年から

環境を

デザインする

都市・建築・生活
の
再構築

日本建築家協会 環境行動委員会 編



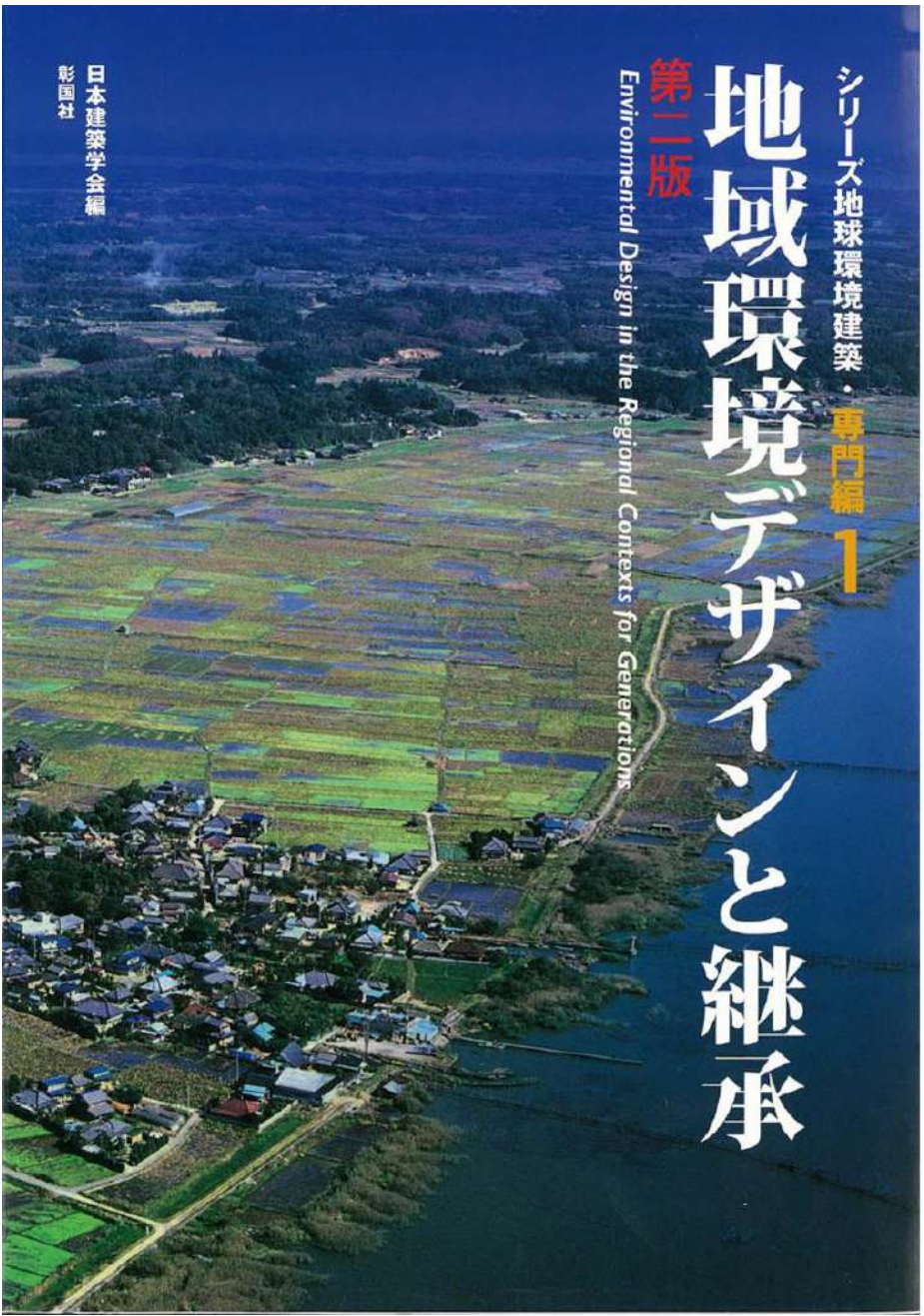
第二版

地球環境建築のすすめ

Towards the Architecture for a Global Environment

シリーズ地球環境建築 入門編

日本建築学会編
彰国社



シリーズ地球環境建築・専門編 1

地域環境デザインと継承

第二版

Environmental Design in the Regional Contexts for Generations

日本建築学会編
彰国社

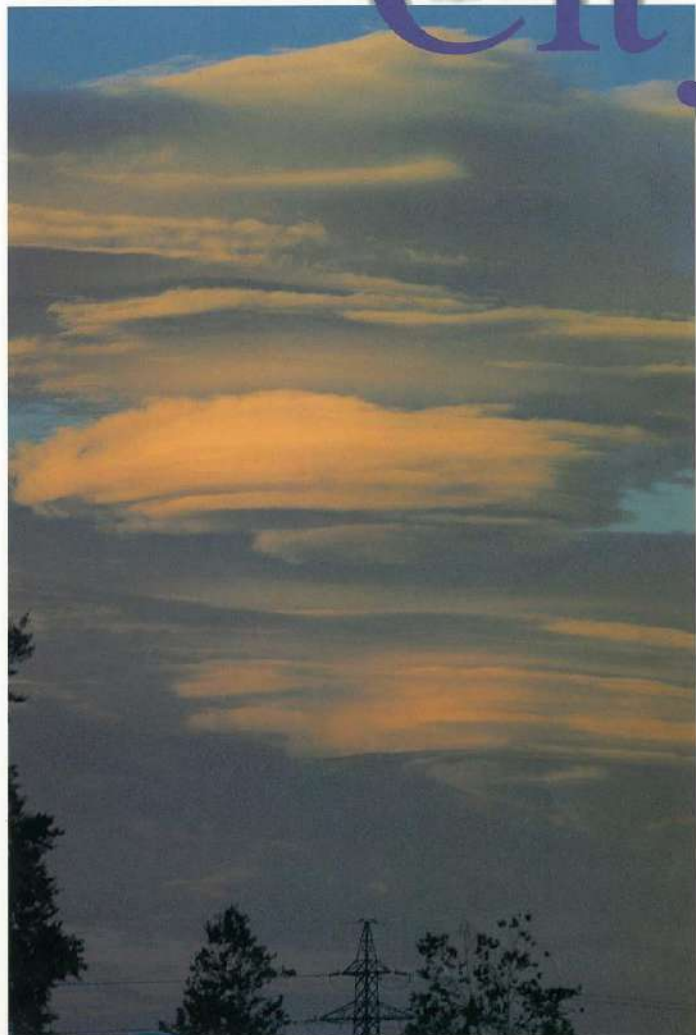
◆特集 「都市と農村の結婚」
コミュニティの再生と新しい農のかたち

英国・北欧のエコロジカルな地域づくり
西フィラデルフィア・ランドスケープ・プロジェクト

「魅惑の農園」 ニュージーランド

A Magazine
for Sustainable Future
ビオシティ

BIO City



BIO-City 特集

「都市と農村の結婚」

コミュニティの再生と新しい農のかたち

Alternative Eco-Habitation 2

英国・北欧のエコロジカルな地域づくり最前線通信 no. 2

農のあるオルターナティブ・ エコ・ハビテーションの実践

● 糸長浩司

日本大学生物資源科学部助教授/バーマカルチャー・センター・ジャパン代表

地球上の田園環境が、大規模近代農業などにより、いまや単調な農村環境・景観を形成している。1世紀も前、「都市と農村の結婚」を提唱したE・ハワードの理想を受け継ぐ英国・北欧の人々は、いち早く、自立的でエコロジカルな都市・農村形成に立ち向かっている。その実践のキーワードは、自立型の「新しい農のかたち」であり、エコロジカルな居住地形成のシステムの発想に基づいた「新しいコミュニティのかたち」である。筆者は、時に一緒に暮らしを体験しながら、様々な実践的な試みに果敢に挑戦している彼らのさまざまな取り組みをリアルタイムでレポートする。



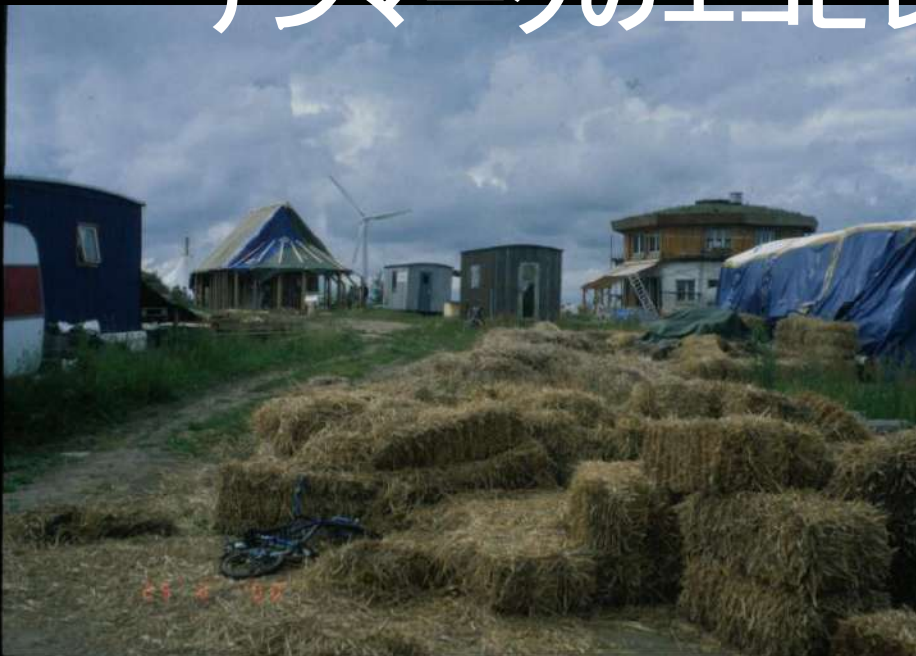
スウェーデンのスメデン・エコビレッジ
90年代に建設された、内陸コンショッピン市
内のエコビレッジ。市の行政的なイニシアティ
ブでエコビレッジ的な暮らしに興味のある人達
が集まって建設された

★エコビレッジ

- 3つのエコロジー（自然・社会経済・精神）が
身近にそろっている集住の場
- 自給性、自立性、自律性
- <共>の暮らし
- 人間的に暮らすための基本的な要求を満す
- 新しい労働の形態をつくる



デンマークのエコビレッジ／ツーラップ



環境共生都市 有機資源のリサイクル
ゼロエミッション バイオリージョン(生命地域)
エコビレッジ エコロジカル・デザイン
自然エネルギー コンポストトイレ

2100年 未来の街への旅

自然循環型社会とは何か?

編・著 / サステナブル・デザイン研究会



エコビレッジのイメージ (絵: 糸長浩司、本田智子)

望ましい。

*人と活動の多様性を保てるだけの大きさが必要。

(3) 人間の行動が自然を壊すことなく自然のなかに統合させる

*人類と他の生物が平等であり、資源の使い方が循環的であること。

(4) 人間の健全な発見を支えることができる

*人間の生活のあらゆる要素(身体、精神、感情)がバランスよくかつ総体的に発達すること。

(5) 永続可能であること

*現在および未来の人間と人間以外の生物・無生物

に対し、公正で、搾取を行わないこと。

(出典「Eco-Village」A Report for Gaia Trust by Context Institute 1991年 訳: 設楽清和)。

では、世界のエコビレッジを見ていくことにしよう。

(2) 基本的な要求の充足

*住居や、仕事、余暇、社会生活や商業活動など、通常の生活に必要な機能がヒューマンスケールの地域内にバランスよく備えられていること。

*必ずしも完全な自給自足でなくてもよいが、雇用に関しては、エコビレッジ内部に十分にあることが

エコビレッジ国際会議東京の開催



★日本のエコビレッジ（化）の展開方向

日本的な歴史・文化・空間・社会資産の継承・蘇生・再生・新生

日本的風土の特異性を生かした、エコロジカル・ハビテーション

●農村：13.5万の集落コミュニティと里地里山(世界遺産的価値)

過疎化、高齢化、農林業離れ、農林地の荒廃化、景観破壊

→ エコビレッジ的再生 = エコビレッジ化

都市住民との協働による エコビレッジ・リノベーション

●都市：下町コミュニティ文化の脆弱化と再生

都市近郊に残る農林空間(農地、屋敷林、平地林、里山)の再生

→アーバンエコビレッジへの取り込み

団地の高齢化、近代住宅団地の画一的空間コミュニティの破綻

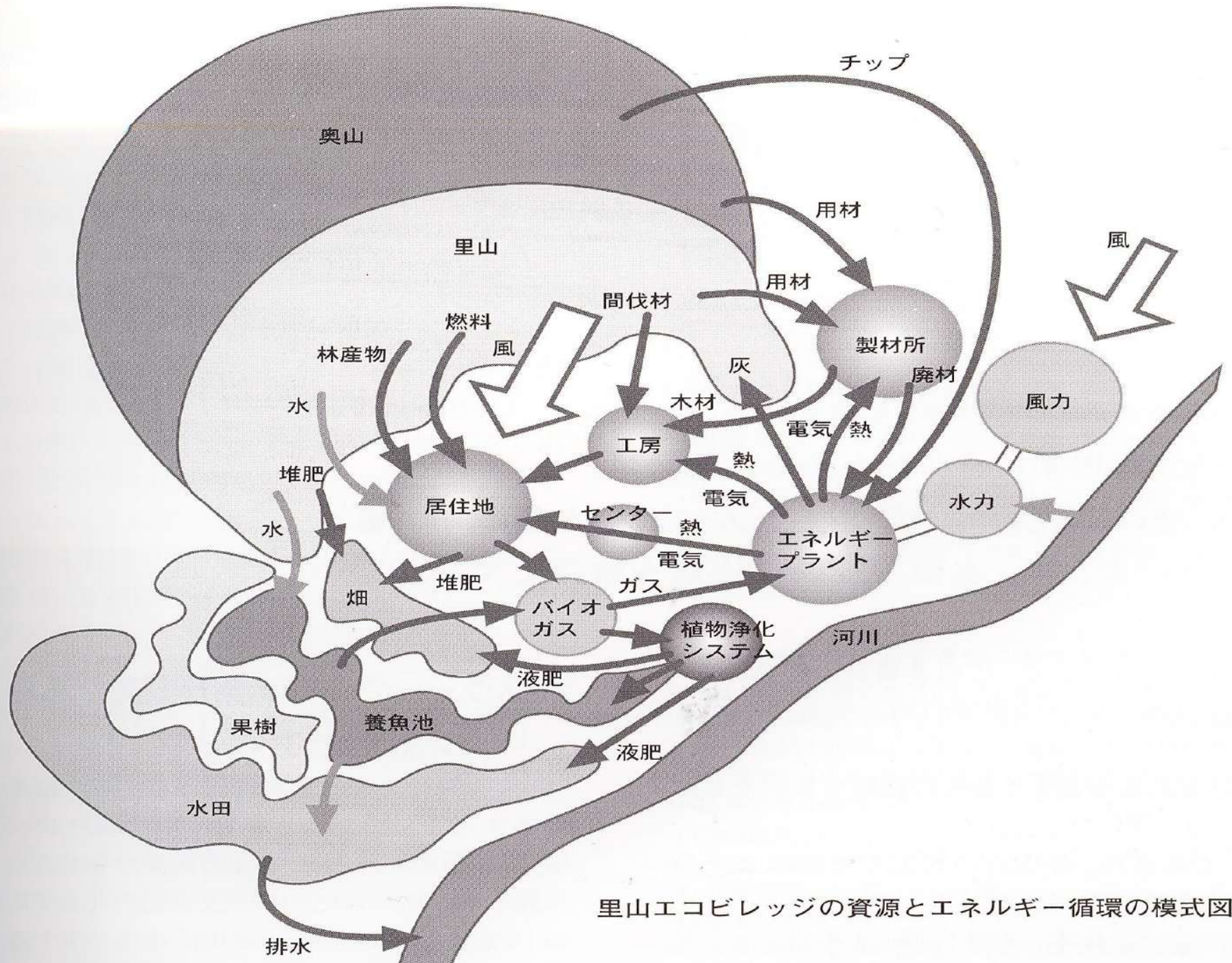
→団地の建て替えとエコビレッジ再生

→コーポラティブ、コレクティブハウスのエコビレッジ的拡張

エコロジカル・ネーバーフッドへの展開

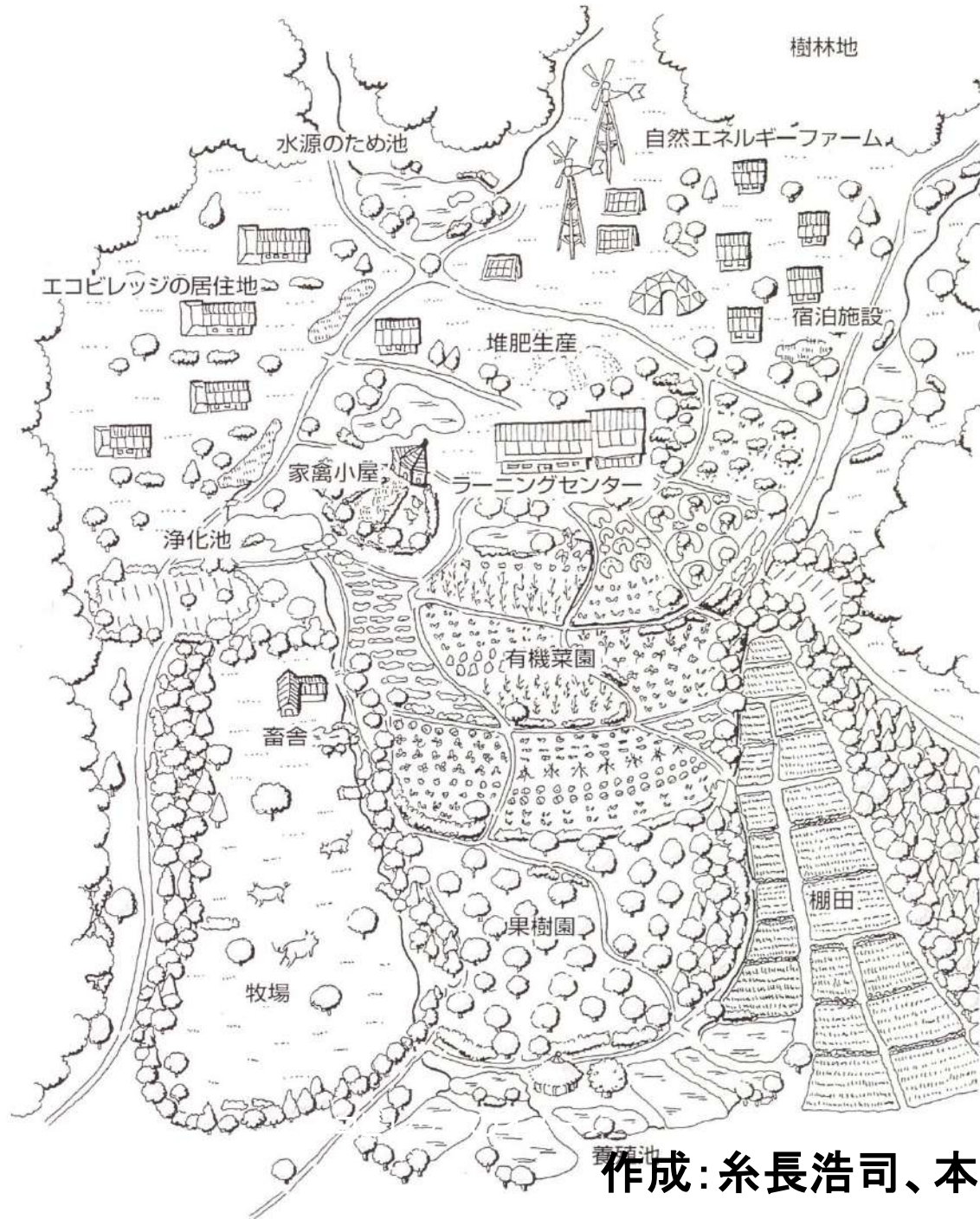
里山エコビレッジ

- ・里山の特徴を活かした自給自足のエコビレッジ
- ・新しい自然共生型暮らしの体感の場
- ・エコロジカルエデュケーションの場づくり
- ・新しいコモンズの形成
- ・奥山ー里山ー里の循環系の新構築
環境・食糧・エネルギー・コミュニティ



里山エコビレッジの資源とエネルギー循環の模式図

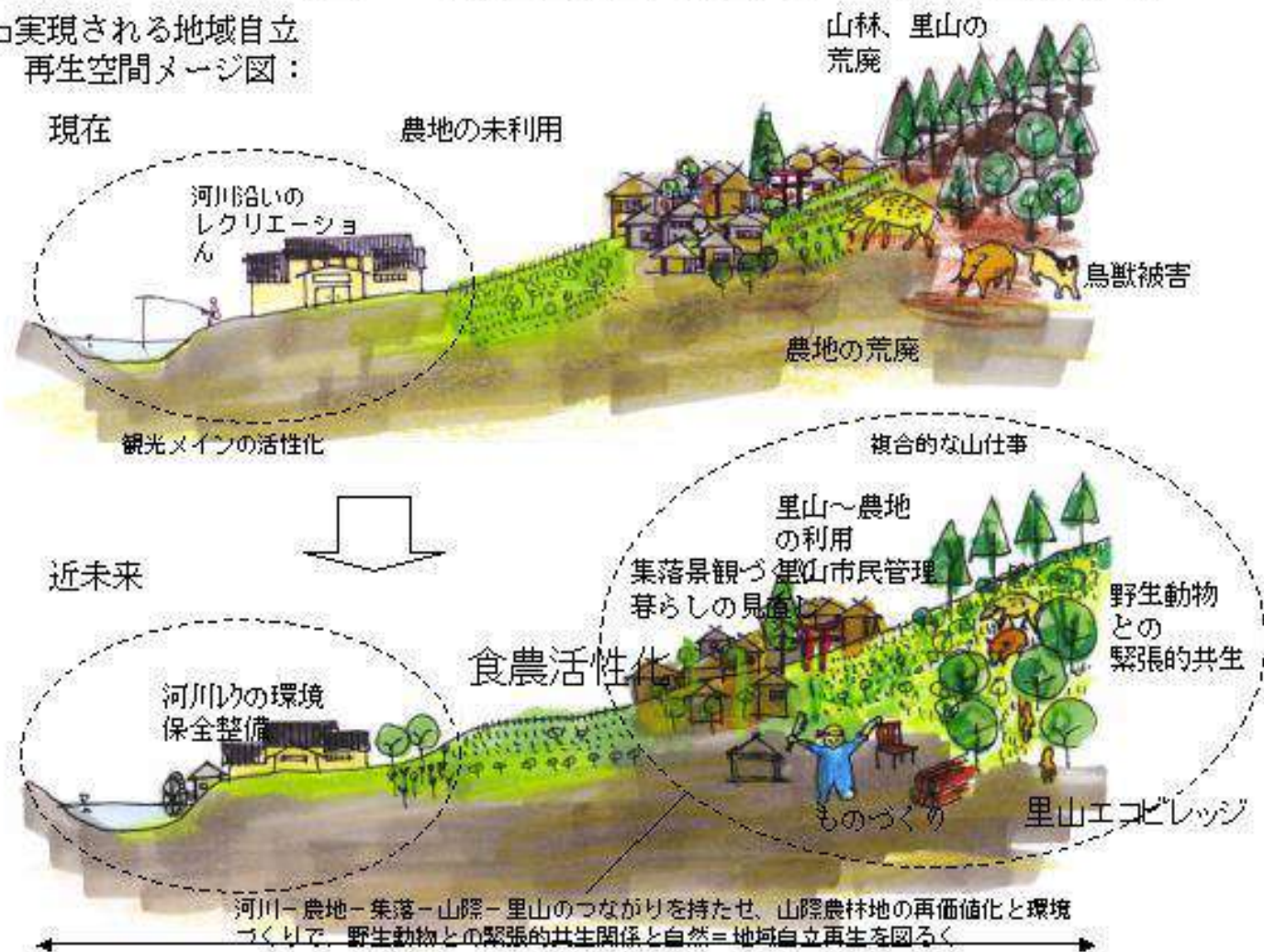
里山エコライフ学習・体験型エコビレッジ



作成: 糸長浩司、本田智子

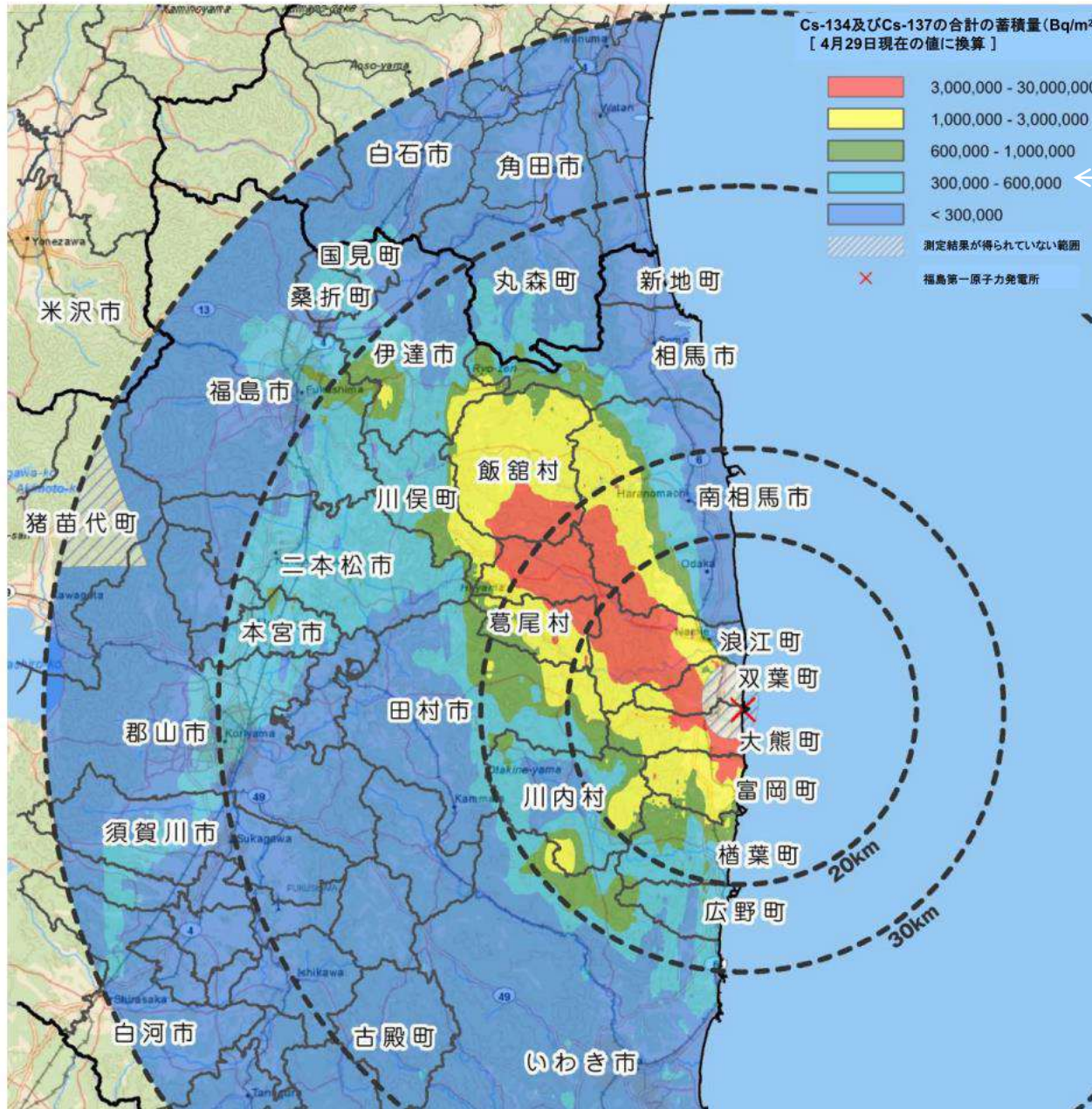
山麓の再価値化を進め、自然と共生した地域自立再生を目指す。／山麓の課題解決と新ビジョンの実現

□実現される地域自立
再生空間イメージ図：



河川－農地－集落居住地－山際農地－里山の土地利用のつながりを復活させ、山際、里山の環境の積極的な活用を図る。鳥獣との緊張的共生関係を保ち、山麓での新しい生業と定住化を促進し、里山エコビレッジづくりを地域の自立と都市住民との連携で進める。

文部科学省及び米国DOEによる航空機モニタリングの結果
 (福島第一原子力発電所から80km圏内のセシウム134, 137の地表面への蓄積量の合計)



BIO CITY

環境から地域創造を考える総合雑誌 ビオシティ
リニューアル創刊特別号



特集 大震災像と 復興再生 シナリオ

海外客員 日本復興のためのシナリオ
スリランカNGOサルボダヤ
イギリスC.A.T.他が語る
新連載
帝京科学大学リレー連載
震災とアート 倉林靖

ピオシティ 緊急公開座談会
赤坂憲雄・内山節・広井良典・糸長浩司
論考「福島原発事故を考える」
今中哲二・崎山比早子他
緊急レポート
飯館村の被害と避難下キョメント
支援アクション

2011
NO.48

3・11後の建築・まち われわれは明日どこに住むか

定 住を超えた移動、移住を組み込んだ交流と歓待の社会 糸長浩司

ゼロ から考える **私** を超える 伊東豊雄

小 さな環境世界 **再** 生可能エネルギー **循** 環型社会 中村勉

事 前復興 **ま** ちづくり市民事業 佐藤滋

近 代の敗北 **関** 係という主体 **定** 住=永遠の営みへの確信 内山節

レ ジリアンスな社会 **Safe to fail** **乾** いた理性 横張真

節 電という社会実験 **自** 立する建築 野原文男

地 域遺伝子 **連** 続体と自然体 ヨコミゾマコト

定 常型社会=地域固有の特徴・多様性・価値が再発見される社会 広井良典

非 同期を促すパラダイム **共** 同的身体性 中谷礼仁

モ ノは壊れても再起できるしなやかな社会 岡部明子

ま ちを継続する力の衰退 牧紀男

か たちの再認識 篠崎健一

近 代的な科学思考の限界 **や** わらかい境界をつくる 小玉祐一郎

BIOCITY

環境から地域創造を考える総合雑誌 **バイオシティ**

リニューアル創刊特別号



特集 大震災像と 復興再生 シナリオ

バイオシティ緊急公開座談会
赤坂憲雄+内山節+広井良典+糸長浩司
論考 福島原発事故を考える
今中哲二・崎山比早子他
緊急レポート
飯館村の被害と避難ドキュメント
支援アクション

海外寄稿 日本復興のためのシナリオ
スリランカ NGO サルボタヤ
イギリス CAT 理事 ピーター・ハーパー
新連載
帝京科学大学リレー連載
震災とアート 舟橋暁

2011
NO.48

contents

特集 大震災像と復興再生シナリオ

監修・巻頭言 糸長浩司

BIOCITY 緊急公開座談会

大災害から何を学び、復興のシナリオをどう描くか 13
赤坂憲雄+内山節+広井良典+糸長浩司 [座長]

論考 福島原発事故を考える

福島原発で何が起こったのか 今中哲二 26

低量放射線被ばくのリスク 崎山比早子 36

災害エコビレッジと復興再生のヴィジョン 糸長浩司 41

緊急レポート 飯館村の被害と避難ドキュメント/支援アクション

飯館村災害後方支援チーム&NPO法人エコロジー・アーキスケーブ 44

海外寄稿 日本復興のためのシナリオ

スリランカの地域再建と再覚醒 インド洋津波災害の体験を通して
NGO サルボタヤ財団事務局長 ヴィンヤ・アリヤラトネ (スリランカ) 54

中国の災害対応と都市・農村一体計画

同濟大学建築・都市計画学部教授 李京生 (中国) 58

完全なエネルギー自給コミュニティ

サムソー島エネルギーアカデミー代表 ゴーレン・ハーマンセン (デンマーク) 61

「イギリス版ゼロ・エミッション」への取り組みと日本への提言

CAT (代替技術開発センター) 理事 ピーター・ハーパー (イギリス) 64

私の福島へのサポート 避難者のためのエコ・コミュニティ

韓国バーマカルチャー・センター代表 イム・ギョンソ (韓国) 69

エコサイクル環境共生住宅

環境建築家 パーティル・テルメニウス (スウェーデン) 71

海外取材

① 地元産業主導でエネルギー自立、再生可能電力の需給調整を実現
オーストリア ケツチャツハ・マウテン町 滝川薫 81

② チェルノブイリから世界の環境都市へ フライブルク市の25年 村上敦 73

③ オーカス島から大川小学校へ スーザン・オズボーン 赤羽根弥生 89

国内取材 緊急提言シンポジウム 2011年5月12日

森と海をつなぐ日本の再出発

島山重篤+稲本正+高見裕一+大熊孝+C・W・ニコル+宮林茂幸 [司会] 95

新連載

帝京科学大学リレー連載 東日本大震災と自然教育 小林毅 104

震災とアート アートに何が可能か 倉林靖 110

巻頭絵 島山直哉 ナチュラルストーリーズ 2

表紙の作品 杉山知子《たった1000軒の家》1995年 作品解説 河崎晃一 124

BIOCITY

季刊誌 48号
2011年9月29日発行

監修
糸長浩司
(日本大学生物資源学部教授)

ロゴデザイン&
アートディレクション
谷口マサオ

土のこえ	
大災害の地から 福島県飯館村, 南相馬市……飯館村村民決起集会上の仲間一同	2
訃報	
名誉会員 藍澤宏先生のご逝去を悼む	三橋伸夫 4
総説	
農村計画に関わる新たな思想	熊谷 宏 6
特別声明 東日本大震災復興に対する農村計画学会アピール	三橋伸夫 7
大震災特集 No.1 国土の災害復興ガバナンスシンポジウム報告	
…………… 学術交流委員会・編集委員会	8
特集 脱成長の農村計画・地域づくり	
解題	北野 取 30
特集論考	
脱成長・持続可能な地域社会の展望	古沢広祐 32
むらの変貌と農村社会再編の展望—連帯経済の構築と自給の再評価—	川手督也 36
社会的・エコロジー的再興としてのローカリゼーション	
懐かしい未来へ: 幸せの経済学とローカリゼーション	鎌田陽司 44
新自由主義・連帯経済・コンヴィヴィアリティ	
—メキシコ農村の事例から—	北野 取 46
エコビレッジとパーマカルチャー	山田貴宏 50
不安定時代の脱功利・脱成長の農村計画, 地域づくり	糸長浩司 55
タイにおける「足るを知る経済」思想に基づいた農村開発事業	小田哲郎 60
論文・報告内容紹介	…………… 64
論文	
換地選定をめぐる利害対立と合意形成	
—新潟県新発田北部地区の事例—	中嶋晋作・有本 寛 65
農業用排水路の維持管理に対する非農家の参加条件	
—農業用水および排水路の管理形態に着目して—	本田恭子 74
活動報告	
農村計画学会 2010 年度秋期シンポジウム	
「青春さよく来たなへ。さ、かつちゃどかだるべ」	
—農村女性起業活動の理念と実際—	大会実行委員会・学術交流委員会 83
農村計画学会地区セミナー開催報告(九州, 北海道)	…………… 学術交流委員会 95
学位取得者論文紹介	
2010 年度学位取得者論文紹介	…………… 97
まちづくりむらづくり	
世界に誇れる共生の鳥づくりヘーツシマヤマメコ保護の今	…………… 前田 剛 98
キーワード紹介	
⑧「オフセット・クレジット (J-VER) 制度」	…………… 大塚生美 100
書評	
岩田俊二 著『津市—地方都市の建設史—』	…………… 春山成子 101
編集後記	…………… 104
投稿規程・執筆要領	…………… 102
本会記事	
色賞発表—農村計画学会 2011 年度秋期大会について(第 2 報) / 農村計画学会 2011 年度秋期シンポジウム(第 1 報) / 2010 年度農村計画学会賞・奨励賞選考結果 / 2010 年度農村計画学会ベストペーパー賞選考結果 / 2011 年度農村計画学会ポスター賞選考結果 / 農村計画学会・学会賞関連規程改定のポイント / 農村計画学会賞・奨励賞候補者の応募及び推薦について / 東日本大震災復興に関する調査ガイドライン / 農村計画研究会第 33 回現地研修会について(第 2 報) / 農村計画学会ホームページアドレスの変更 / 30 巻 2 号「西洋農村計画適用の功罪と展望」座談会のお知らせ	

□特集論考□

不安定時代の脱功利・脱成長の農村計画, 地域づくり

Rural Community Improvement and Rural Planning for Society of De-utility and De-growth in Instability Era

糸長 浩司*

Koji ITONAGA

はじめに

今回の特集の基本的テーマは「脱成長と農村計画」である。この論考を書くのに長い時間がかかってしまった。本編集企画は、2010年の秋頃に、企画担当者の北野先生とこのテーマで意気投合しスタートした。私の経済哲学者のラトウーシュの「経済成長なき社会発展は可能か?」¹⁾の和訳が出版されたり、反グローバリゼーションの世界的潮流が起る中で、農村計画の課題と展望を考えてみたい思っていた。農村計画学会が30年経つ中で、農村計画の理念を見直す特集として、経済成長の指標とは異なる指標での農村計画理念の構築、その理念による計画手法、制度の新展開が必要であると考える。新自由主義とグローバリゼーション、そして、リーマンショックに翻弄された日本経済、社会、そして、農業生産、農村社会の有り様の大転換が必要であり、そのキーワードは脱成長、脱経済成長にあると確信する。

本学会には、都市の経済成長に追いつくことを目途とした、農村経済の成長のために、農業生産性の向上のための農業・農村環境の近代化、効率化をはかるための計画手法、事業手法に関する計画学、事業学を研究・実践している研究者、実務者も多く存在する中で、本テーマは冒険的なテーマである。農村計画学会の30年経つ今、農村の環境、農村住民、農村の歴史・文化のために、今、農村計画をどう変革していったらいいのか。日本だけでなく、世界的な環境問題の潮流の中で、日本の農村をどう計画的に保全し、維持し、未来の世代に託していったらいいのかを考えることが重要である。

そんな問題意識を持ちながらも原稿執筆を遅滞していた時に、3.11の大震災が起きた。この現実的な対応に追われる中で本原稿を、5月初旬の今、切羽詰まって書いている。大地震、大津波の大震災の中で、原発事故とその後の政府の災害対応の不的確に伴う大人災の中で、農

山漁村は今ある。大災害のまったただ中で、われわれの農村計画は何かできるのか、何をしなければならぬのか。原発災害中の農村地域での行政や村民に対して、模索しながら支援し、苦悶している真っ最中、改めて、脱成長の農村計画、地域づくりを考えてみる機会としたい。原発被害地域の福島県飯館村での小生達の苦悶と支援活動に関しては、本号の大震災特集NO1で述べているので参照してほしい。

II 経済成長一元軸から転換し、多元的な農村計画の発見と創造のための農村計画

我が国の農村計画の歴史、特に戦後史では農業、農村の近代化が主要な理念であり、都市並の経済に農村が追いつくことがメインであり、農業生産性の向上、農業生産力の近代化がメインで公共事業主体で進められた。経済成長という一元の目標による農業農村整備であり、そのための農村計画であったと極論できよう。この経済成長一元目標は農村だけではなく、都市経済成長、都市経営と言われて日本全国でも進められた。農村以上に都市成長、大都市経済成長が主流であった。GDPという近代的経済価値に基づく成長評価であり、それを現実するための計画、法制度手法の開発と適用が近代化として進められた。効率良く整備し、効率良く利用し、効率良く生産し、経済価値を高めることが目的とされた。そのための農村計画論、農村事業手法の展開であった。

これらの戦後の経済成長を軸として、農業・農村振興のために公共事業が農村で展開され、それを支える計画論として農村計画が発展してきたといえる。農村の経済成長を軸とした農村社会の成長をめざした計画学であった。もちろん、その過程で行き過ぎた課題として自然環境の破壊、生物多様性に対するダメージ、伝統的な景観の破壊、伝統的文化の疲弊に対しての問題提起があり、改善理念、改善手法が提案され実行されてきた。農村計

*日本大学生物資源科学部、NPO法人パーマカルチャー・センター・ジャパン College of Bioresource Sciences, Nihon University / Chairperson of Permaculture Center of Japan
Key Words: 1) 脱成長, 2) 脱功利主義, 3) 多元的価値, 4) エネルギー下降, 5) 災害ユートピア

Resilience of Rural Community through Emigration and Return

糸長 浩司*

Koji ITONAGA

1 はじめに

2011年3月11日から一年が経過する。復興の見通しが厳しいままの一年であった。この一年間で何がどう解決したのか、その解決に向けて私達は何が出来たのかと自問自答せざるを得ない。東京電力福島第一原発事故での計画的避難区域に指定され、現在も厳しい避難生活の続く飯館村の人達と一緒に行動している中で多くの矛盾を感じ、葛藤しながらの支援活動をしてきている。

農村計画学会誌30巻1号(2011年6月発行)で、「放射能で汚染された村で、放射能と共存は可能なのか、共存するとした時の土地利用、暮らし像をどう描くのか、まだその再生ビジョンは見えない。出来ないとするれば長期的な移村、分村のビジョンが必至である。・・・新たな福島型農村再生ビジョンづくりが、放射能研究者、農村計画学者、プランナー、行政職員、村民を交えた再生ビジョン創造のためのガバナンスによって構築されることが求められている。」と書いたが、その復興再生のシナリオを実現していくにはまだまだ障害が大きい。

飯館村の災害後の施策展開をみていると多様な課題が見えてくる。災害以前は当たり前前に実施されていた住民参画での村づくり、行政と住民との協働の村づくりが、災害後の対策の核として行われているとは残念ながら言えない。情報開示の遅れ、その情報に基づく評価と避難行動の誘導は不十分であった。仮設住宅建設の場所や方法、仮設小学校の建設、除染を中心とした復興再生事業に関して村民の意向は十分に反映されていない。国や県の対処策が場当たり的な中で、飯館村という一地方自治体の苦闘は計り知れない。一方で、飯館村当局の的確な情報開示、除染と移住を含めた復興再生計画づくりへの村民意向の把握とその反映手法の欠如等、この一年間で多くの限界が出てきていることも事実である。

大規模で複雑、前例のない原発事故、放射能災害の渦中であり、将来を見据えた的確な復興策は簡単に提示できないであろう。その中で、分散避難している現在の村

のコミュニティの維持は難しい。特に借り上げ住宅に避難している若い世帯では、かつての村のコミュニティの維持の必要性、将来性に関して疑問を感じている人達もいる。改めて、コミュニティとはなにか、共同で暮らすとは何かの根本的な問いが突きつけられている。この間は、農村コミュニティ計画に深く関係している農村計画学の研究者、計画者へも突きつけられた大きな問でもある。

2 コミュニティのレジリエンス

盛んにレジリエンスという概念が登場している。生態学では、回復力、弾性力を表す。心理学分野でも、ショックに対する耐久力、回復力としてレジリエンスの概念は注目されている。壊れたものが回復するというより、ショックを与えられた時に、そのショックで全体が壊滅される前にそのショックを和らげ、しなやかに対応しようする力を意味する。その意味では弾性力という表現が的確でもある。大災害で大きな打撃を受けたコミュニティ、避難せざるを得ない状況で分散、分解状態にあるコミュニティをどう維持し、将来に向けて再生していくのか、その時にコミュニティのレジリエンスが問われる。

パーマカルチャーの英国でのリーダー、ロブ・ホプキンスが2005年頃から始めた、脱石油社会、脱温暖化社会をめざすローカル運動であるトランジション運動でのキーワードの一つは、レジリエンスである。レジエン

コミュニティの実践的レジリエンスの構造
(「THE TRANSITION COMPANION」Rob Hopkins)

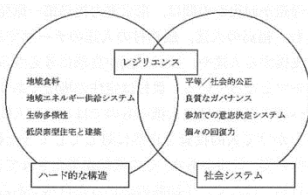


図1 低炭素社会のためのコミュニティレジリエンス

* 日本大学 Nihon University

Key Words: 1) 東京電力福島第一原発事故、2) コミュニティ、3) 回復力、4) 移住、5) 遷住

土のこえ
この地で営農を続けていく(宮城県石巻市北上地区)..... 北澤大佑 500

総説
震災復興事業のあり方..... 岡田知子 502

大震災特集 災害現地座談会(復興・再生に向けて)
津波被害集落・大船渡市碓石地区座談会
..... 大船渡市碓石地区住民・遠野まごころネット・
大船渡応援団・NPO法人ミレニアムシティ/司会:糸長浩司・藤沢直樹 504

原発災害農村・飯館村民座談会..... 福島県飯館村民/司会:糸長浩司・浦上健司 513

災害復興再生支援活動報告/会員活動報告
東京電力福島第一原発事故による飯館村のコミュニティ再生活動報告
一福島飯館村の現状 その3一
..... 糸長浩司・浦上健司・関正貴・藤沢直樹・藤島祥枝・小澤祥司 525

川俣町山木屋地区における流域単位の除染に向けた放射能調査
..... 近藤昭彦・小林達明・唐常源・鈴木弘行・千葉大学山木屋後方支援チーム 528

東日本大震災の津波被災地における復旧・復興の経過と現状の課題
一岩手県・宮城県を中心に、震災8ヶ月後の状況一..... 広田純一 530

宮城県泉仙沼市の復興と大学ネットワーク..... 一ノ瀬友子 537

津波被災農地の植生状況と植生管理の必要性..... 嶺田拓也 540

集落整備調査からみた避難・減災の考え方一金石市箱崎半島を事例として一
..... 佐藤栄治・三橋伸夫・本庄宏行・藤藤隆太郎 542

NPO活動報告レポート..... 吉里吉里国、遠野まごころネット、RQ災害教育センター、
子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク、つながりぬくもりプロジェクト、
パルシック石巻事務所 544

復興再生の課題と展望/論考
三陸集落再生と減災復興の視点..... 重村力・三笠友洋 551

被災地漁業・漁村再生の展望について
一浜のくらゝと生業から見る被災地沿岸漁業と小漁村復旧・再生の課題一..... 富田 宏 557

移住・環住による農村コミュニティのレジリエンス..... 糸長浩司 563

過去の復興研究とダム生活再建地づくりの体験から東日本大震災復旧・
復興における新たな政策展開に向けて一福島第一原発災害による
中・遠距離避難者の生活再建問題を問う..... 石丸紀興 567

自然エネルギーを供給する農山村の可能性と課題..... 小林 久 573

論文内容紹介
..... 578

論文
農村地域市町村における社会経済状況と就業地の関係に関する考察
一中国地方の市町村内地区間推定通勤者数を使用した分析一..... 能美 誠 579

活動報告
農村計画学会2011年度秋期シンポジウム
「阿蘇草原保全の現状と再生への課題
一阿蘇の文化的景観の持続的保全管理と地域活性化を求めて一」
..... 大会実行委員会・学術交流委員会 588

日韓の農村防災計画と復興計画
一2011年度・日韓農村計画学会シンポジウム報告一..... 国際交流委員会 600

まちづくりむらづくり
小笠原諸島の世界自然遺産と外来種対策..... 柴垣佳久 608

キーワード紹介
④「防潮林」..... 大澤啓志 611

書評
福与徳文著『地域社会の機能と再生 農村社会計画論』..... 漆原浩雄 612

編集後記..... 618

学位論文紹介募集..... 615

30巻総目次..... 613

投稿規程・執筆要領..... 616

色頁会告 農村計画学会2012年度春期大会について(第2報) / 農村計画学会2012年度春期
大会学術研究発表会(ポスターセッション)プログラム / 農村計画学会2012年度春期シンポ
ジウム(第2報) / 農村計画学会2012年度秋期大会について(第1報) / 平成24年度第34回
現地研修集会のお知らせ(第1報)

帰還優先ではなく、

村民の生活・〈共〉(コモン)の回復・再生を優先する

★帰還と回復

帰還は、元居た場所に還ることである。

元の状態に還ることは回復。

帰還は場所へのこだわり

回復は状態へのこだわり

原発事故被害地域の復興再生の主要なテーマは、

帰還ではなく、回復。

人の回復、家族の回復、コミュニティの回復を

第一に考えたい。

不安定期の脱成長社会での

移住・還住のデザイン

2 居住 1 0 0 年構想

- ・飯館村での農的に暮らしが継続でき、かつ集落のコミュニティが維持でき、また、自然エネルギーを活用したエコロジカルな暮らしが実現できる、仮設村を構想した。
- ・戸建て仮設住宅ではなく、長屋形式で共同性の確保、効率良い建て方を想定する。
- ・建物はユニットで構成し、このユニットを外部でプレハブ的に製作し、それを避難村に運び、村の工務店、造園会社が施工し雇用も産み出す。

再生可能エネルギーの地産地消戦略



● みんなの建物

キッチン、トイレ、多目的なスペースを持つ、みんなの建物を建設します。みんなが自然に集まってくるようなシンボリックな空間となります。ゲストハウスや外来者の体験入居の場所としても利用できます。



● みんなの農地

敷地の北側のまとまった土地を、みんなの農地として利用します。みんなで協力し、地元の農家の支援を受け、様々な農業にチャレンジすることができあす。



● 個人の庭

各住戸にもちょっとした庭が。ガーデニング、有機野菜の栽培など自由に趣味を楽しみましょう。



まで一な避難長屋の意義

- ① 住宅としての永続性はある。
- ② 恒常的な村として機能してもよいが、飯館村に帰村した場合は、菜園付き別荘地的な活用可能。
- ③ 居住する村民は、300万円の住宅再建補償金を活用して初期投資をする。
- ④ 残りの建設費は、補助金+倫理的投資金を活用する。

● みんなの広場

建物と建物間の空間を、みんなの広場として利用します。子供の遊び場、井戸端会議、バーベキュー、収穫祭や夏祭りなどのイベント開催・・・住民の憩いの場となります。



● 森の家とセルフビルド

森の家を自然素材（例えば藁）を使って、地元の大工さんなどの協力のもと、自分たちで作ります。森の家だけではなく、みんなの建物、各住戸も、セルフビルドが可能な作業は、自分たちで作ります。



大震災復興と二重コミュニティを考える

- ・農村コミュニティの脆弱化
 - 場の衰退、環境・景観の衰退
- ・主体(担い手)の再構築
 - 交流、相互移住

二地域居住・交流のすすめ (二重コミュニティ)

- ・被災者の移住先での
 - 二重・複合コミュニティの構築
 - 二重住民票
 - 不安定な大地と付きあうために、
第二の故郷をみんな持つことの安心感
- ・コミュニティの自律、自立性(行政の枠を超えて)